

協会だより

4月号



今回の平成27年4月号は、協会の新体制とご挨拶をお届けします。

公益財団法人 福島県区画整理協会

発行人 / 遠藤 光一

「奇跡のふくしま」へ

理事長 遠藤 光一



過日、仙台を中心に行われた国連世界防災会議に出席し、世界が福島を「悲劇のフクシマから奇跡のフクシマ」となるよう期待、注視していることを実感いたしました。

当協会では、引き続き、新地町を始めとする被災市町村に寄り添った復興まちづくりや、住みたくなるデザイン設計を通した一日も早いコミュニティの復興公営住宅整備を最優先で進めてまいります。

また、昨年より無人ヘリで撮影した復興状況や、英文による街区デザインをホームページにアップ、ふくしまの復興の「見える化」を推進します。

さて4月1日より、退職する大和田事務局長、磯貝技術参事両名の円滑な協会運営の継続と拡充を図るため、県職員を退職された沼田和夫氏を事務局長に、また、理事会了承のもと、磯貝信氏を初めての協会プロパーの常務理事にお迎えし、一方、浜通りの市町村の復興まちづくり支援強化のため、いわき事務所を移転増床、増員してまいります。

非常事態は継続中です。職員及び協力会社には経験したことのない相当量の激務をお願いしています。皆様にはご迷惑をおかけする場面が多々あるかと思いますが、より一層の指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

福島は美しい花の季節を迎えています。梅の花は冬が厳しいほど美しい色と芳醇な香りを漂わせると言われています。花を慈しみ育て、未来の子どもたちに引き継ぐことが私たちの責務であると思います。

復興災害をバネに、地域風土に根差した五感の心が和む、新しい理念のまちづくりを積極的に展開してまいります。

事務局長 兼 総務課長 大和田 正彦



平成27年3月31日をもって協会を退職する事となりました。協会に採用されたのが東日本大震災発生後の平成23年6月1日でした。あれから早くも4年になろうとしていますが、この間、会員市町村の皆様には大変お世話になりました。

震災直後は、その影響により様々な事業が停止してしまい心配をしましたが、ここに来て復興事業が本格化し協会としても県並びに市町村の復興のお手伝い出来るようになりましたことを嬉しく思っております。

また、会員市町村の方々のご理解とご協力によりまして、平成25年7月1日付けで公益財団法人へ移行できましたことが、担当した仕事として特に印象に残っております。

これからも、県並びに市町村に寄り添った協会として事業を進めて参りますので、後任事務局長に対しましてもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

常務理事 磯貝 信



本年2月の理事会において選任され、4月1日より常務理事に就任いたしました。今更に大変な重責をお預かりしたと、身の引き締まる思いでございます。

はなはだ微力ではございますが、わずかでも理事長のお力になればと考えております。

理事長の年頭所感「(公財)福島県区画整理協会の胎動、イノベーションの元年」として、県区協の春となるよう、イノベーションの花を咲かせるつもりで、職務に携わる所存ですので、何卒なお一層のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

事務局長 兼 総務課長 沼田 和夫



4月からお世話になっております。3月まで勤務していた県南地方振興局管内の矢吹町では、中心市街地のまちづくりとして復興住宅の建設を位置づけておりました。県内の空洞化している市街地の区画整理は、是非とも進めなければならない事業であると思います。

精一杯皆さんのお仕事を支えられるよう頑張ります。

技師 三浦 優人



はじめまして。このたび4月に新規採用となりました、新人の三浦と申します。大学では、土木工学を学び、橋梁に関する研究を行っていました。区画整理については分からないことばかりですが、一日でも早く仕事を覚え、協会の戦力としてまちづくりに貢献できるように努力していきたいと思っております。色々のご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

☆ 街区デザインのモデルを発信（協会公益事業） ☆

復興公営住宅（戸建）では、原子力発電事故で避難されている皆様のごころが、少しでも和むコミュニティづくりを目指しています。無機質な道路や短冊型の団地ではなく、住民の皆さんが共有の庭として使える「コモン」を囲み、緑豊かな環境のなかで、震災直後から寄り添ってきた応急仮設住宅の絆も維持できる居住者主体のコミュニティ空間です。

There is a little creek in the site, which has sustained the life and rice making in the region. Over the creek a small stone bridge was built. The design was designed and built by the traditional method, which inherits the local culture to this and the next generation. It is a symbol of this site, showing harmony of nature and people.

On the park and green site, "Mountain Gravel" was laid. It comes from Hisanohama Coast, one kilometer from the site. Stones in mountain were flown down in river to the coast, washed and polished to be gravel, by great waves of the Pacific. By having this gravel layer, rain infiltrates to the ground, flooding prevented. Along the edge of the park, it creates a special dried landscaping along with rocks and pine trees. Let us nourish the local park and green.

小川郷団地の中に水路があります。長年、この地域の命と米作りを支え続けてきたものです。そこに、コモンと公園を繋ぐ小さな石橋を、ニッ山山に向けて架けました。その技法は先人達が地域の自然と共生して作り上げてきた石文化を復活させたものです。この石橋は伝統文化を次世代に継承する、地域と人々の共生のシンボルです。

公園や緑地には、ここから1km離れた久ノ浜で産出される、日本で最も古い「山砂利」を敷きました。礫が小川に溶けて流下し、久ノ浜の海岸で太平洋の荒波により磨き上げられた玉砂利が隆起し「山砂利」となったものです。この「山砂利」は、雨水を地下に浸透させ、大雨の時にまちを洪水から守ってくれます。公園の縁では松や岩と相まって、ここならではの枯山水風景を創りだします。公園の縁では松や岩と相まって、こゝんなで大切に、地域の緑や公園を育てましょう。

A Heartwarming Community

Ogawago Restoration Residentials
Fukushima Prefecture
Fukushima Prefecture Land Readjustment Association

ごころが和むコミュニティ
いわき市小川郷復興公営住宅
福島県・福島県区画整理協会



水と緑と公園があるまち

Life with Creek, Green and Park

いわき市小川郷のコモンを取り入れた復興公営住宅のイメージパース

編集後記

今年も開催しております第3回写真コンテスト！！
5月15日(金)まで受け付けておりますので、出品をお待ちしています。

地域づくり活動支援事業も7月より申請の受付が始まりますので、是非ご検討ください。

まちづくりの事なら区画整理協会にご相談を(^^)
お花見の季節、飲みすぎにはご注意くださいませ。



(南口)

発行 / (公財) 福島県区画整理協会

〒963-8014

郡山市虎丸町6番16号

あいおいニッセイ同和損保郡山第一ビル

T E L : 024-921-5000 / 921-5027

F A X : 024-921-8383

U R L / <http://www.fukushima-kukaku.or.jp>

いわき事務所 (新住所)

いわき市平字愛谷町1丁目7番5号

T E L : 0246-68-6631